

令和5年度 事業報告書 伏見いきいき市民活動センター

【指定管理者:有限責任事業組合まちとしごと総合研究所】

1 施設運營業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 8 名（常勤：1 名、非常勤：7 名）

【人材育成の取組】

- ・ 公共施設の運営、管理における基本的な業務については、OJT を行い、各スタッフが適切に業務を実施できるようにしています。
- ・ 全体での研修を通して、市民活動センターのスタッフとしての支援力向上やノウハウ共有などを行っています。
- ・ 定期的な面談を通して、各自のスキルアップやキャリア形成、ワークライフバランスを確認する機会をつくっています。

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
279	270	266	296	277	284	284	273	244	249	277	270

(年間)

3269 件（前年度比 95%）

イ 利用状況

- ・ 昨年度 4 月、5 月、6 月は、利用料金 100 円時の申し込みが多くあり、3 ヶ月とも利用件数が 350 件以上でした。昨年度より減少した要因はその点にあります。
- ・ 12 月、1 月は開館日が少ないこともあり、他の月と比べる利用件数が落ち込みました。しかし、12 月、1 月以外の月ではおおよそ 270 件を維持した利用となりました。
- ・ 集会室は、平日の日中(13 時～17 時)での利用も増えてきており、利用を順調に伸ばしています。コロナで活動を休止されていた利用団体が今年度復活したことや新規団体が定着してきたことが理由としてあげられます。
- ・ 会議室 305、会議室 306 は、平日土日いずれも夜間利用が多くありました。一方で日中(13 時～17 時)の時間帯は空いていることもあり、利用促進をしていく必要があります。
- ・ 音楽室は、他の会議室に比べて価格を低めに設定していることもあり、利用が少しずつですが、増えています。価格に加えて、防音であることなど設備面も踏まえての宣伝を検討していきます。

ウ 利用促進に向けた取組

- ・ 館外の歩道に面している掲示板でセンターの貸館を紹介しました。どのようなお部屋があるかわかるよう、お部屋の写真を掲示するなどしました。実際に、「掲示板を見て来館した」や「通りすがりで気になって、問い合わせした」というように利用につながりました。

- ・webでの検索の際に、センターがヒットしやすいようなGoogle広告を活用し、宣伝しました。

エ その他

サロン利用人数(述べ)：2916名(昨年度：2569名)

- ・新しい取り組みがスタートすることでサロンを訪れてくださる新規の利用者がいらっしゃいました。
- ・既存の取り組みにおいても新しくメンバー募集されることで取り組み自体のメンバーが増加しているケースもあります。

(3) 情報発信等

ア 取組実績

- ・SNS(Twitter、Facebook、Instagram)にて、事業の様子や貸館情報を定期的に発信しました。
- ・SNSにおいては、協力いただいた団体をタグづけすることでセンターだけでは届くことが難しい層への発信を行い、センターを知っていただく機会としました。加えて、センターに関連した投稿をしてくださった方には、いいねやコメントなどセンターからリアクションを返すことも心がけました。
- ・伏見区の市民活動を応援する助成金情報を発信しました。
- ・伏見区で魅力ある活動をされている個人や団体を掲載するWebマガジン「UTTOCO」を発行しました。昨年度は、空き地を活用して地域交流の場づくりを行う団体や子育て世帯を食事づくりの面からサポートするNPO法人などにインタビューを行いました。

イ 取組の効果

- ・webマガジン「UTTOCO」のインタビュー先の方が、センター主催イベントに参加してくださるなど、継続的な関係性を気づくことができました。
- ・事業と関わりのある方が、SNSでのシェアやコメントなどリアクションをしてくださいました。

(4) 管理運営

- ・法定点検としてある、消防用設備点検、空調保守点検、建築設備点検、定期清掃などは業者に依頼し、期日までに実施をしました。
- ・上記の法定点検以外にも、日常的に施設の維持管理をチェックシートをもとに定期的に行いました。
- ・防火管理者の選定、消防訓練など緊急時の対応を検討、訓練しました。
- ・その他、備品等の保守管理、保安警備業務等を実施しました。

(5) その他

- ・センター運営において気になる点や改善点があれば、スタッフ全員が出席する定例会議において全体で検討を行い、アイディア出しや提案を行いました。

- ・ 高校、大学などの教育機関と連携し、地域での学生の活動コーディネート（龍谷大学政策学部 Ryu-SEI GAP）や学校運営協議会への出席（京都府立京都すばる高等学校）を行いました。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】伏見の市民活動を生み出す支援プロジェクト

事業の概要

① 市民の学び・対話の場づくりと市民活動団体の創出

- 1 開催日時：2023年8月19日（土） 13時～16時
2023年10月21日（土） 13時～16時
2023年12月16日（土） 13時～16時
2024年2月17日（土） 13時～16時
- 2 開催場所：伏見いきいき市民活動センター
- 3 参加人数：述べ30名
- 4 協力団体等：ふしみNEXT(市民活動団体)
- 5 予算：885,000円／決算：883,015円

② 新しいチャンスを生み出す支援プロジェクト

- 1 開催日時：2023年5月～2024年3月 [全10件]
- 2 開催場所：伏見区内の各活動団体の拠点
- 3 参加人数：10団体
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算：1,390,000円／決算：1,372,593円

1 事業内容

① 市民の学び・対話の場づくりと市民活動団体の創出

今年度は、伏見区で活動する市民活動団体「ふしみNEXT」と共に、対話の場づくりを行いました。「ふしみNEXT」は、もともと区役所主催の市民型ワークショップに参加していたメンバーが立ち上げたチームです。新型コロナウイルスの影響などもあり、市民が集まり、話し合う場が制限されたことから、自分たちでそのような場を提供できないかという思いから発足しました。センターでは、昨年度から「ふしみNEXT」の活動を支援しており、今年度はついに共同で対話の場を設けることとなりました。

各回では、伏見で活動するまたは活動したい人がプレゼンターとなり、それぞれの活動をプレゼンし、参加者同士で学びを深めました。第1回は「紙メディアを起点にまちや人とのつながりを生み出すには？」、第2回は「住民が中心となりつくる、まちの公園のこれから」、第3回は「地域で支える豊かな学び」、第4回は「高齢者が地域で孤立する事なく、暮らし続けるための取り組み」をテーマに実施しました。

② 新しいチャンスを生み出す支援プロジェクト

新型コロナウイルスによる影響でストップしていた地域イベントやシニア・子どもの居場所などの活動が本格的に元に戻りつつあります。そのなかで「久しぶりの開催のため、特別感を出したい」、「毎月の活動メニューを考えたいがアイデアに欠ける」といった地域のみなさんからの声をいただきます。

一方、センター利用団体のなかには、イベント中止により活動発表の機会を失った団体も少なくありません。実際の舞台がないことで、練習へのモチベーション低下やメンバー減少といった問題が生じている団体もあります。

そこで、活動メニューに悩む地域団体と活動の機会を求めるセンター利用団体を結び、新しいつながりを築く取り組みとして昨年度に続き、今年度も実施しました。昨年度の成果により、この取り組みが多くの方々に周知され、京都新聞などでの掲載効果もあり、多くのご相談をいただきました。

2 準備段階での工夫

① 市民の学び・対話の場づくりと市民活動団体の創出

主にチラシや SNS を活用して広報を行いました。今回は「ふしみ NEXT」との共同開催のため、メンバーのみなさんとも協力して広報を行いました。テーマに興味がありそうな方に声をかけたり、地域団体などに配布していただくなどセンターだけでは届かない層にも広報を行いました。当日の運営については、事前に複数回「ふしみ NEXT」と打ち合わせを行いました。

② 新しいチャンスを生み出す支援プロジェクト

地域団体と利用団体の顔合わせ兼打ち合わせでは、確認漏れや質問漏れがないかを意識しながら実施しました。多くの場合、1回の打ち合わせで本番を迎えるため、お互いの不安や疑問をこの段階で解消しておくことが重要です。また、イベントや居場所づくりを行っている方々のもとを訪れ、取り組みについて理解を深め、活用いただけるよう努めています。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

① 市民の学び・対話の場づくりと市民活動団体の創出

伏見区内で活動している人や活動したい人のプレゼンを通して、参加者が活動に参加したり、情報を収集したり、行動につながることを目指しました。また、プレゼンして終わりではなく活動経過報告の機会を設け、参加者も含めて活動を応援しているコミュニティを目指しました。

② 新しいチャンスを生み出す支援プロジェクト

定期的に居場所づくりを行う活動団体や地域で新しいイベントを開催する団体に対し、メニュー提供やゲスト探しを簡略化することで、実施のハードルを下げます。今年度は、地域行事が昨年度よりもさらに活発になる可能性があるため、自治会や町内会にも活用していただけるような展開を進めます。

(2) 事業実施による目標の達成度

① 市民の学び・対話の場づくりと市民活動団体の創出

地域での活動に興味や関心を持つ方や今後活動していきたいと考えている方と、実際の活動者をつなげる場を提供できました。しかし、アンケートの結果では、プレゼンターの活動に対して「参加してみたい」「興味がある」という回答が9割を占めましたが、実際に参加したという声は得られませんでした。参加者が行動に移すための具体的な手段を準備できておらず、参加に至らなかったと考えられます。

一方で、各回のテーマに興味を持ち、参加してくださった方もいらっしゃいました。「自分が日頃から感じている課題を話すことができ、さらに学びを得られた」、「さまざまな活動を主催している人と出会えたに出会えた」といった声がありました。日頃出会うことがない層との出会いにより、自身の学びや今後の活動に対する参考になることが感じられたようです。

② 新しいチャンスを生み出す支援プロジェクト

今年度は、12件のご相談をいただき、そのうち10件について支援をおこないました。具体的な事例としては、学区社協が主催するシニアの居場所や地域で行われる地蔵盆などが挙げられます。地域行事の再開にあたり、自らでは実施が難しい部分をセンターが利用団体をつなぎ、サポートを行いました。

また、昨年度から継続している事業であるため、昨年度は雨天により実施ができなかったケースについても、利用団体からの要望を受け、再度サポートし、実施することができました。

4 今後の抱負

① 市民の学び・対話の場づくりと市民活動団体の創出

上記にも記載したように、参加者が行動に移すための具体的な手段を準備できていなかったことが今後の課題となりました。また、各回のテーマにおいても今後検討していく必要があります。

② 新しいチャンスを生み出す支援プロジェクト

事業者主催のイベントへの依頼をいただくことは嬉しい反面、安価なサービスと見なされてしまうこともありました。おつなぎする際の連絡や相談は丁寧に行うことでミスマッチを防ぎます。加えて、改めて事業趣旨を理解いただけるように丁寧に説明していきます。

【事業名】 市民活動団体や地域団体の伴走支援プロジェクト

事業の概要

- 1 開催日時：2024 年 5 月～2 月
- 2 開催場所：伏見いきいき市民活動センター 会議室
活動団体拠点
- 3 参加人数：2 団体
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算：1,190,000 円 / 決算：1,121,126 円

1 事業内容

伏見区で活動する市民活動団体を対象に、半年間の伴走支援を実施しました。各団体の課題を詳細にヒアリングし、課題に対して解決の糸口となる専門家や同様の活動を行っている団体を招き、共に課題解決のためのアイデアを出し合う場を提供しました。その際、話し合いだけで終わらず、出たアイデアや意見を元に行動に移すためのサポートを行いました。

今年度は2団体の伴走支援を行いました。1つ目は、「tetoteto」という子育て世代のお母さんが中心となり、深草で空き地を活用した親子の居場所づくりを行っている団体です。この団体では、リーダーに役割が偏ってしまう課題がありました。そのため、メンバーの役割分担を明確化し、新たなメンバーの参加を促すための取り組みを行いました。

2つ目の団体は、「きょうのあそびば」という公園で子どもたちが自由に遊ぶことができるプレイパークを実施している団体です。活動期間が3年目となり、活動の幅を広げるために資金調達が課題と感じていました。そのため、クラウドファンディングの実践者でもある、資金調達のアドバイザーを招き、クラウドファンディングの成功ポイントや作成中の団体ページの添削を行いました。また、団体の認知度向上のために SNS での発信や広報物の作成、対面での寄付集めなどの具体的な取り組みを行いました。

2 準備段階での工夫

応募書類には、今回の応募理由が記載されていますが、そこでは表現しきれない思いや団体が気付いていない課題を掘り起こす作業をヒアリングを通して行いました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

団体だけでは解決が難しい課題に対して、専門家や先進的な活動を行っている団体からアドバイスや事例紹介などを行い、それを踏まえて団体に適した課題解決の方法を見つけます。また、実際に取り組み、効果を検討し、振り返りながら次の一步を考えていきます。

(2) 事業実施による目標の達成度

団体だけでは、地震の課題や困りごとを言語化する機会が少ないため、現状を把握することが難しいことがあります。今回の事業のように第三者(センターや専門家)が関わることで団体としての意見や課題を明確にすることができました。また、専門家からのアドバイスを通じて、団体が本質的な課題に気づき、具体的な行動に移すことができました。

「自分たちだけでは繋がるのが難しかった人とのつながりを作ることができ、新たな知見や関係性を構築することができました。今後の事業展開に役立てていきたい」という声がありました。さらに、「ファシリテーショングラフィックなど視覚的にまとめてもらうことで、団体の思いを再確認することができました」という声がありました。

4 今後の抱負

団体ごとに状況が異なるため、団体に応じた支援をさらに実施していきたい。また、単に1年間のサポートだけでなく、事業を通して築かれた関係性を大切に、アフターフォローも行っていきたいと考えています。

【事業名】多世代交流拠点きょういく基地プロジェクト

事業の概要

① シニアの得意や好きを活かす〇〇さんの日

- 1 開催日時：2023年5月～2024年2月
 - ・健康まーじゃん塾：22回
 - ・筋トレ体操：43回
 - ・コグニステップ(認知症予防)：11回
 - ・いきいき筋トレ(ロコステップ)：35回
 - ・ハンドメイドサロン：10回
 - ・笑いヨガ：5回
 - ・ハワイアンリトミック：1回
- 2 開催場所：伏見いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数：
 - ・健康まーじゃん塾：述べ515名
 - ・筋トレ体操：述べ547名
 - ・コグニステップ(認知症予防)：述べ102名
 - ・いきいき筋トレ(ロコステップ)：述べ510名
 - ・ハンドメイドサロン：述べ81名
 - ・笑いヨガ：述べ54名
 - ・ハワイアンリトミック：14名
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算：805,000円／決算：802,905円

② 子育て世代や子どもなど多様な世代への活動スタートアップ

- 1 開催日時：
 - ・にこにこルーム 2023年5月～2024年2月 [16回]
 - ・にこマルの日 2023年5月～2024年2月：[6回]
- 2 開催場所：伏見いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数：
 - ・にこにこルーム：述べ59組 156人(子ども83人、大人73人)
 - ・にこマルの日：述べ56組 161人(子ども97人、大人64人)
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算：480,000円／決算：478,390円

1 事業内容

① シニアの得意や好きを活かす〇〇さんの日

今年度もシニアの得意や好きを活かして、活動のはじめの一步を踏み出す取り組みとして、「〇〇さんの日」を実施しました。さらなる活動の進化を図るために、各取り組みのリーダーに集ってもらい、リーダー会議を開催しました。その中で、来年度以降の体制変更の呼びかけ、支援を行いました。その結果、ほぼ全ての団体のリーダーが交代し、新しい取り組みが追加され、変化を生み出すことができました。

今年度は、2名の新たな「〇〇さん」が誕生しました。1名は、これまでに音楽ケア体操などを不定期に実施していた方で、笑いヨガの定期開催に向けてサポートを行いました。回数を重ねるごとに参加者が増え、活動が定着し、来年度以降も継続して毎月開催する予定です。もう1名は、サロンで実施している「子育て」の事業においてサポートしている方で、子ども向けの内容をシニア向けにアレンジし、実施しました。こちらは、挑戦の機会を提供することを目的に1回のみで開催となりました。

②子育て世代や子どもなど多様な世代への活動スタートアップ

昨年度に引き続き、未就学児親子の居場所づくり「にこにこルーム」を実施しました。今年度は、毎月第2、4土曜日を親子来館を促進する日とし、季節のものづくりや家ではできない遊びや体験などを実施しました。平均4組10人（子ども5人、大人5人）が来館し、スタッフとの会話や参加者同士の交流を楽しむ空間となりました。

また、子育て世代が自らの得意や好きを活かしながら活動を展開していくことを目指し、シニア層で実施している「〇〇さんの日」の子育て世代バージョン「にこマルの日」を実施しました。今年度は、3名のお母さんがそれぞれの得意や好きを活かした活動に挑戦しました。具体的には、「遊びのワークショップ」、「ハワイアンリトミック」、「子育て相談」が行われました。にこにこルームで一定の参加者が定着していたことから、開催日は、にこにこルームと同じ日に設定しました。

2 準備段階での工夫

① シニアの得意や好きを活かす〇〇さんの日

各取り組みのリーダー（〇〇さん）とのコミュニケーションを丁寧に行いました。日々の活動の様子だけでなく、活動中に生じた問題や困りごとについても相談いただけるような関係性を築くことを大切にしました。また、センターとして重視している事項や方針について、リーダー会議などで改めて共有し、サロンが共同でつくる場であることを再確認しました。

毎月の予定表を発行し、新しい取り組みが始まる際には積極的にシニアの方々に案内しました。一度参加してくださった方が口コミで広めてくださることが、伏見のサロンの強みとなっています。

② 子育て世代や子どもなど多様な世代への活動スタートアップ

3名のお母さんたちが活動に挑戦する際に、どのようなことをしたいと考えているかをヒアリングしました。そのなかで、センターとの共通点を確認し、実施しました。また、子育て世代に情報を届けるために、Instagramを活用した広報活動を行いました。その効果もあり、宇治市や城陽市など伏見区外から足を運んでくださる方もいました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果, 目標等

①シニアの得意や好きを活かす〇〇さんの日

シニアが今までのスキルや得意を活かして、主催する場づくりをサポートすることを目指します。活動する際にネックとなる、人、資金、場所をサロンを活用することで、活動のはじめの一步を踏み出しやすくします。

また、参加メンバーが固定化してきている点も課題としてあるため、新たな参加者を募集し、そこから担い手の発掘も目指します。

②子育て世代や子どもなど多様な世代への活動スタートアップ

保育園や児童館など子ども向け施設がサロン周辺にもいくつかありますが、一度お昼で閉まるため、「お昼ご飯を食べる場所があれば。。。｣という声を耳にしました。そこで、サロン周辺の子育て世代がサロンをもっと活用することを目指します。今年度は、ものづくりや体験ワークショップなどをメインにサロンの特色を広く知っていただける取り組みや情報発信を行います。

(2) 事業実施による目標の達成度

①シニアの得意や好きを活かす〇〇さんの日

新しく取り組みに参加した方は、計 20 名でした。今年度は、しみん新聞で広報を数回行ったこともあり、しみん新聞を見て参加した方もいました。また、そこから継続的な参加につながった方もいます。新しい取り組みへのサポートを行い、次年度にも継続して実施するための体制移行を行うことができました。

多くの参加者から「サロンでの活動が健康につながっている」という声を聞くことができ、積極的に参加してくださるシニアの方が多かったです。参加者同士で「この取り組みは面白いから、あなたも参加したらどう?」などと話し、取り組みの輪が広がっている様子もみられました。

②子育て世代や子どもなど多様な世代への活動スタートアップ

サロンを従来の「シニアが中心の居場所」としてだけでなく「子育て世代にとっての居場所」として利用者や地域に周知することができました。実際に、「土曜日に開催している居場所が少ないので助かります」といった声があり、他の居場所が土曜日に開催されていないことから、近隣はもちろん遠方からの参加者もあり、子育て世代のニーズを満たす活動を展開することができました。

また、子育て世代を対象にした活動創出に取り組み、支援対象者の次のステップに向けたサポートを実施しました。

4 今後の抱負

① シニアの得意や好きを活かす〇〇さんの日

昨年度に課題として掲げていた、次のステップに向けたサポートについては、納得をもって体制の変更に取り組んでいただけた状態となったため、来年度以降も引き続きサポートをしながら、定期的な活動相談の場を設ける必要があります。

② 子育て世代や子どもなど多様な世代への活動スタートアップ

1回あたりの参加人数が昨年度と比べて大幅に増えたことで、対応可能人数を検討する必要がでてきました。今年度は、事前申し込み不要で実施してきたが、参加が多く予想される取組などは事前申し込み制を検討していく必要があります。

3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1 利用料金の収入実績

令和5年度実績：4,715,120円（前年度比125%）

〔内訳 会議室等：4,678,600円
付属設備：36,520円〕

2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

(1) 全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和5年11月実施

【調査項目】窓口サービス

(2) センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

2 利用者満足度把握の結果

(1) 全センター共通窓口サービス

	たいへん 満足	満足	不満	たいへん 不満	無回答
① 案内表示の わかりやすさ	28.6%	63.8%	6.7%	0%	1%
② 挨拶や声かけ	43.8%	55.2%	0%	0%	1%
③ 身だしなみ	41.9%	57.1%	0%	0%	1%
④ 表情や態度	45.7%	51.4%	0%	0%	2.9%
⑤ 言葉づかいや 説明の丁寧さ	41.9%	55.2%	0%	0%	2.9%
⑥ 説明の わかりやすさ	37.1%	59%	1%	0%	2.9%
⑦ 整理整頓	41.9%	55.2%	0%	0%	2.9%

(2) センター独自アンケート

市民の学び・対話の場づくりと市民活動団体の創出

第2回「住民がまちの在り方とともに考えるこれからの公園」

とても満足した：71%/満足した：29%

理由：・自分が公園で活動してうえでのヒントを得ることができたから。

・公園は住民たちが作り上げていくものであり、ルールも自分たちで
つくっていくものであるという話に共感した。

・小さな活動、芝生づくり、気功とともに公園のイメージが広がった。

3 意見等への主な対応状況

- ・節電の関係で廊下の照明が暗い。人気もなく、子どもの利用もあるため危険なのではないか。
→点灯する照明の数を増やしました。また、点灯時間を従来より早めに点灯するよう心がけています。
- ・上記以外には、「部屋代が高くなり、困った」「あと 100 円安いとありがたい」という利用料金に関する意見、「5 分前入室にしてほしい」という入室時間に関する意見、「WEB での予約、キャンセルができたらいいい」、「キャッシュレス対応を検討してほしい」という予約・受付に関する意見がありました。いずれも、現在のセンターの運営状況では安定的に導入することが困難なため今後の検討素材としています。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

- ・ 取り組んだ事業等の総括を記載してください。

貸館に関して、昨年度に比べて件数は減少しましたが、利用時間数や売上は増加しました。昨年度の初めの3ヶ月は、イレギュラーなものでしたので、今年度の金額が一定の基準となります。利用促進のために、SNS (facebook、X、Instagram) での広報や Google 広告などを行いました。SNS においては、媒体ごとにターゲット層を意識した発信を来年度以降も実施していきます。

事業に関しては、継続事業が多かったため、地域の方々に少しずつセンターの取り組みを知っていただき、ご相談をいただくことが増えました。地域からの声に応える取り組みについては、引き続き改善しながら実施していきます。

- ・ 今後、解決すべき課題等があれば記載してください。

貸館に関しては、昨年度より利用時間数や売上は増加しましたが、今後の運営やセンターの空き状況を考慮すると、利用拡大に向けた課題があります。

事業に関しては、求めている方や対象者に情報が適切に届くような広報や地域とのネットワーク構築が課題となっています。さらに、センターの取り組みを地域に広く届けるためにも必要です。

- ・ 次年度に向けた対応について記載してください。

貸館に関しては、さらに利用を促進するための方法を検討し、実施していきます。具体的には、伏見センターの場合、伏見区内の方に多くご利用いただいているため、近隣店舗へのチラシ配布や既存利用者の口コミなどを活用して、より多くの方にセンターの存在を知っていただけるよう取り組みます。

事業については、対象者を明確にし、必要な事業を展開していけるよう事業の見直しも視野にいれます。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

特になし